

同窓会だより

1997年10月1日発行
大阪市住吉区杉本3-3-138
TEL 06(607) 8373
FAX 06(605) 2769
発行人 廣岡 孝一

第10回工学部同窓会評議員会を開催

1997年(平成9年)2月7日、新阪急ビルスカイルームにて第10回評議員会が開催され、第12期の下田隆二会長・植木正富副会長の後任として、広岡孝一(応化・昭和29年卒)・坂内幾男(建築・昭和24年卒)の両氏が、それぞれ第13期の会長・副会長に選出されると共に、当期の事業計画と予算が決定されました。

また、評議員会後に催された恒例の同窓懇親パーティでは、和やかな歓談で互いに同窓の絆を強め合いながら散会しました。(詳細は13ページの事務局年報をご参照下さい)

工学部主催の送別式と鏡割りに協賛

去る3月24日の工学部恒例の送別式と鏡割りに、広岡会長他理事が出席し、261名の学部卒業生と105名の大学院修了生の新しい人生への門出を祝った。

市大ボート祭をアドバルーン掲揚で祝う

去る5月24日、25日に催された第106回市大ボート祭に、他学部の同窓会と共に協賛アドバルーンを掲揚し、市大の大代表的な祭りの一つであるボート祭を祝った。

工学部同窓会“キャンパス交流会”へのお誘い

今年の母校の大学祭(银杏祭)は10月30日～11月3日に催されます。そこで、11月1日(土)午後の杉本キャンパスで、工学部同窓会の“キャンパス交流会”を開催します。银杏祭の見物も兼ねて、是非ご参集下さい。なお、詳細は20ページをご覧ください。

目次

13期行事の概要報告・ご案内……………1	学科通信(応物)……………10
廣岡新会長・多胡工学部長挨拶……………2	〳 (情報)……………11
青木元教授・下田前会長の寄稿……………3	〳 (生応化)……………12
学科通信(機械)……………4	平成9年卒業生名簿……………13
〳 (電気)……………5	〳 入学生名簿……………15
〳 (応化)……………6	同窓会事務局年報……………18
〳 (建築)……………7	学部電話帖・新評議員名等……………19
〳 (土木)……………9	キャンパス交流会の詳細案内……………20

同窓会会長 廣岡孝一



工学部同窓会会員の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。私は下田前会長の後を受け、本年度より会長を務めさせていただいております。微力ながら本会の活性化と発展に尽力致しますのでよろしくお願い申し上げます。

本会はこれまでの先輩諸兄の熱意のお蔭で発足から50年を超えて会員数は1万人に迫り、これらが最も盛大な時代を迎えるものと存じます。これに呼応して大阪市大同窓会連合会でも、副会長と理事の役割を担当し、市大連合同窓会の組織化にも協力してきました。

また、去る8月2日に工学部同窓会からも参加致しました。大阪国際学術文化都市推進会議では、大阪オリンピック招致応援決議を行い、磯村市長に決議文が手渡されましたが、ほどなくJOCの選定会議で大阪が国内候補に決定されました。日本招致までの課題は多いものの、これによって大阪が国際的知名度を高めて行ける大きな切っ掛けを作ったことは喜ばしい限りです。2008年は大阪市のインフラが完成する時期であります。無理をしてオリンピックを引張って来るのではなく、先づ市民に喜ばれる都市環境を整えてこれを理想的なオリンピックの場として提供しようという、磯村市長の理念には全く共感するところあります。

さて話は変わりますが、工学部はもの造りの学府であります。ところが行き過ぎた円高以降は貿易摩擦の圧力もあって日本企業の海外生産が増え、一時は国内の空洞化が懸念されて、もの離れ現象さえ見られるようになりました。しかしながら21世紀の日本経済も製造業の健全性なしには語る事ができません。これからの日本の製造業は一級品を作る以外に道はないでしょう。東海大学の唐津一先生は「日本は人工資源供給国になっている」と仰っています。例えばアメリカが巻き返してきた半導体生産もそれを作るためのシリコンは日本が世界の80%を占有し、半導体を入れるパッケージはセラミックが100%日本製、エポキシ樹脂は70%が日本製という具合です。日本は一級の生産財を輸出して相手国に完成品を作らせ、共生を図る国になっているのであります。

今年3月経済企画庁の発表によりますと、平成8年の日本のGDPは500兆円の大台に乗りました。この数字はドイツ、フランス、イギリス3ヶ国(合計人口1.9億人)の合計額よりも大きいのです。しかも日本の輸出はGDPの僅か8.3%で、EU諸国のそれが20%前後であることに較べますと、日本の内需の強さが明らかです。このような成果は、工学部出身の方々の活発な研究や企業内における日本式TQC、TQMの弛まざる追及に負うものであります。明日の日本に向けて、工学部同窓会の皆様の自信に満ちた活躍をお祈り申し上げます。(応化・昭和29年卒(株)ナードケミカルズ社長)

名誉会長 多胡 進



ご清祥にお過ごしのことと存じ上げお慶び申し上げます。毎々、本工学部のごこと、後輩へのご指導などに、多大のご指導とご鞭撻をいただいておりますことを感謝します。

大学は、現在、全国的に教育改革、大学院の整備充実などの潮流の中にあります。大阪市立大学は、平成6年度教養部の廃止と4年一貫教育への指向から始まった教育改革はその途上にあり、さらに昨年10月より学術情報総合センターが開館するなど、平成元年大学基本計画の策定以来新しい都市型総合大学への道程を歩みつつあります。

工学部・工学研究科の充実については、本年度4月より情報工学専攻修士課程、生物応用化学専攻後期博士課程を開設し、新しい工学分野の入学生を迎えて8学科8専攻の内実を磨くことによって地域の要請に応えるとともに、国際的な工学分野の拠点となるように努めています。

引き続き、長年にわたって工学の教育研究の方針について計画を続け、大学内外の関係者のご指導を折々に得てきました大学院の整備充実をめざす10学科3大専攻を内容とする整備計画の実現を推進しています。工学の高度な先端性と総合性を築き、都市型総合大学にふさわしい21世紀の工学の教育研究を実践できるようにします。

平成8年7月、我が国では科学技術基本計画を決定し、実施に移ったことは知られるところです。工学部は未だ体制が十分ではありませんが、これに対応しながら、科学技術の新たな展開に備えつつあります。地域社会からの受託研究を一層進展させるとともに、新たな産業創出と振興をめざす産業と共同研究開発を開始し、さらには大阪市工業研究所と協定を結ぶ等の先行的な試行と展開を進めています。

平成7年度より始めました工学研究科後期博士課程への社会人大学院生入学によって、研究の活性化を図っています。実社会の事績を博士論文にまともな境地を開拓していただくことはもとより、先端的な研究を進めている内外の人々とひろく接することができ、自己の分野以外の他専攻や研究科と実際的な教育研究の交流が自然にできること等が特徴になっています。あわせて若い大学院生が大きく成長するための刺激が生じています。翻って、JICA研修生などの学生層の多様化の中で、平成10年度から、工業高等学校卒業生の推薦入学生を受け入れ、個性と実力を有する卒業生を育成する予定です。

開かれた大学の本年度行事に、第5回大阪市立大学国際学術シンポジウムの12月開催があります。工学部担当により「世界7都市が語る一豊かな都市環境」を大テーマとして7姉妹大学・7姉妹大都市の研究者や専門家が一時一場に参集するシンポジウムを、本学が最初に開催します。同窓会の来る記念事業に先行して実施しますことを何卒寛容をもって御了承くださいます。みなさまのご参加と格段のご支援を切にお願い申し上げます。

同窓のみなさまのご健康とご活躍をお祈りいたします。

(工学部長・建築学科教授)

下田 隆二



老妻と年1回の海外旅行と月1回のゴルフ、時には旧友と麻雀を楽しみ、古いアナログのレコードでスマタナを聴きながらコニャックの香りにひたる、というような生活がハッピーリタイヤというものかなあとなんとなく想像しております。

が、いま、私はベトナムのホーチミン市から北へ約200キロのジャングルの中のバオロックという小さな町に来ております。この町の近くにベトナム屈指の大きな水力発電所の建設が進められており、10名ほどの日本人技術者集団に混じってこの仕事に従事しています。還暦を5年も過ぎてなぜバタバタ働くのかといってくる友人もいますが、こうして卒業以来40年以上もやってきた仕事の経験がまだ世の中のお役に立ち、生き甲斐となる幸せを痛感しております。リタイヤなどまだまだといった感じです。

具体的には、私の仕事はこの発電所設備の国際入札に提出された世界各国の一流メーカーの技術図書を審査・評価する業務であります。私は永年メーカーに勤め、技術図書を作成・提出する立場にいましたので、世界の強豪がどんな設計をし、どんなアピールをするかは大変興味があり勉強になることなのです。

「君らは歳をとってもハンコを押すだけの仕事はするな。生涯コンパスと定規を放すなよ」と市大時代にいわれた吉本源之助先生の言葉が未だに耳から消えず、そのほかの個性あふれる先生方の薫陶が染み込んでハッピーリタイヤの境地に達しないのだらうと思います。

ホーチミン市(旧サイゴン市)には25年前に一度来たことがあります。この町はその間にベトナム戦争という大きな試練を受けております。現在は平和そのもので、当時と大きく変わったのはホーチミン市内にやたらとバイクが増えたこと、新しい大きなホテルが数多く建設されたこと、戦争博物館ができたことなどでしょうか。バイクといえば殆どがホンダの50ccですがホーチミンの道路はまさにバイクの洪水です。何十万台あるのか見当もつきませんが、2人乗りは当たり前、子供を入れると4人も乗ったバイクがウオウ走っているのを信号もなく乗用車が横切るなどは想像を絶します。混乱の中にも私には考えられない交通ルールがあるのでしょうか。

戦争博物館にはアメリカ軍の兵器がずらりと展示しており、ロープを張ってあるわけでもなく、触るのはもちろん乗ってハンドルを回すのも自由、まさに圧巻です。戦車、戦闘機、ヘリコプター、大砲、砲弾、爆弾、迫撃砲、各種自動小銃等々、映画でしか見たことがないものがすべて本物です。こんなものでついこの間まで殺し合いをしたのかという実感。

いつも申し上げますとおり、工学部でもの作りを学び、社会に出てこれを実践してその喜びを実感し、リタイヤする歳になってもこうして新しい刺激を常に受けること、技術者冥利に尽きるといふべきでしょうか。(機械・昭和29年卒・前会長・シモダエンジニアリング(株)社長)

青木 修三



昭和27年に工業高校を卒業し、化学会社に就職して給料をもらうようになって以来企業と大学の間を行ったり来たりの経過を辿ってきましたが、本年三月に二度目の務めであった大阪市立大学での定年を迎えました。企業と大学の双方を経験し、ここで一段落したのを機会に、感じたことを二、三書かせて頂きたいと思います。

最近一流企業の経営トップが関与する不祥事あるいは犯罪に関する記事が新聞を賑わしています。それもみな年寄が絡んでいます。どうやら定年という世代交替を計り、若返りを促進する素晴らしい制度がないのか、あるいはあっても機能していないのかも知れません。某社の名誉会長が人事の実権を持っていたなどという記事がありましたが、大学でなら名誉教授が人事に口をはさむということでしょうか。定年が区切りなら一度だけではなく、一生のうちに何度かあってもよいのではないかと、その度にリフレッシュ出来、新たな目標にチャレンジ出来る、と言うのはどうでしょうか。大学教員の任期制に通じるかも知れません。

大学には幾つもの学部がありますが、その中で(とくに市大の)工学部のidentityは何でしょうか。新入生はあるイメージを持って入学してきているはずですが。ちなみに手元にある辞書で「工学」を引いてみますと、物理・化学などの理論を工業生産に応用するための学問・技術とあります。私の専門分野は化学ですが、学会には理、工、農、薬、医、生活科学などいわゆる理系のあらゆる学部や企業から研究者が集まります。つまり化学はたいへんスペクトルの広い学問分野と言えます。だからといって自分の所属部門の専門と離れた研究をしてもよいことにはならないでしょう。なぜならその部門の存在、それに基づく教育と研究は社会の要請に立脚しているはずですが。しかし絶えず組織や内容の素早い見直しを行う必要があります。工学部に所属する教員はどのような研究をし、卒業生を送り出せばよいのか、社会のニーズである受け入れ側の企業や官公庁の意見も聞きながら自問し、十分に論議してほしいと思います。さらにできれば教員の何パーセントかは現場を経験した人が望ましいと考えています。さらに望ましくはインターン制度として教員となる前、あるいはなってからでも海外留学と同じように一、二年企業で実務経験を積むというのはどうでしょうか。大学人の視野を広げることは、大学にとっても、本人にとってもプラスでありましょう。

最近産官学の協力、ベンチャービジネスに対する大学の支援態勢作りといったことが盛んになされているようですが、大学の先生の顔は大企業にしか向けられていない、と言われたことがあります。これはある意味で仕方ないことかも知れませんが、大学によっては専ら中小企業を対象として支援・協力するところがあってもよいのではないのでしょうか。これから強力な大学は世界のトップに立つ大学を目指し、弱小大学は生き残りを目指す時代に入ります。ここで最も重要なことの一つは大学運営にあたられる先生方の経営センスであり、それに対する協力態勢でしょう。母校の発展を切に願うものです。(元応用化学科教授)

機 械

機械工学科

東 恒雄



会報が皆様のお手元に届くのは中秋、今は晩夏。夏の盛りを過ぎて朝夕はかなり涼しくなりました。皆様お変わりございませんか。

5月の終わりには関東の「こいさん会」例会にお招きいただきました。卒業生諸氏のご活躍の様子を拝見して機械科の教員として誇らしく感じるとともに、二次会、三次会も含めて楽しいひとときを過ごさせて

いただきました。ここから御礼申し上げます。

さて、教養課程が廃止され、学部4年一貫教育制度になって3年たちました。新制度のもとで教育を受けた学生が3年生終了時の関所を通過して元気に卒業研究に取り組んでおります。新制度の教育の良否はひとえに私も教員の不断努力にかかっていますが、その成果をみるにはまだ少し時間がかかりそうです。ところで、機械工学科では2年前から、「機械設計製図演習」と「機械工作実習」を一本化して「機械設計製作実習」を科目提供しております。学生を7、8人単位のグループに分け、前期セメスター（週5コマ+アルファ）で設計・製図を行った機械を後期セメスター（週2コマ+アルファ）でみずから製作・組立・試運転まで行うというものです。現在は「空き缶潰し機」をテーマに、機械工学科の全教員18名と技術職員3名が分担して指導に当たっております。機械設計や加工の経験の乏しい教員も努力して加わり、年度末の点検と反省をもとに次年度の指導計画を立てるといって進めています。このような例は全国的にも珍しく参考データはありません。卒業生の皆様のご助言を期待しております。

教員の動向ですが、内然機関講座の瀧山武先生が昨年12月に博士（工学）の学位を取得され、今年4月には講師に昇任されました。また、同じく4月に内然機関講座の助手として本学修了者の高田洋吾君が採用され、活躍されています。

学生の就職ですが、来春学部卒業予定者は57名（内18名は大学院進学）、前期博士課程修了予定者は13名で、就職先は全員決まりました。これも良き先輩のお陰です。当初、就職協定の廃止で学生の就職活動開始時期をいつにするか気を使いましたが、例年通りのスケジュールで行いました。ただ、企業の方が来学される時期は例年より早まって4月に集中したのは確かです。来年度は守田栄之教授が就職担当をされる予定です。

最後に、この11月に予定の工学部同窓会懇親パーティーで皆様と親しくお話しさせていただくことを楽しみにしております。ご健勝とご活躍をお祈りいたします。

（機械工学科主任教授）

「こいさん会」

真野 司郎



「こいさん会」とは、旧制都島高専及び大阪市立大学工学部の機械工学科卒業生の関東支部同窓会の呼称です。

「こいさん会」とはロマンがあって、なんと素晴らしいネーミングではないか。就職や転職によって、遠く東京の地に勤めた先輩方が昭和33年（1958年）に同窓会を設立するに当って、ある先輩が遠く遠く東京（あづま）の地から大阪（なにわ）に

いる彼女（こいさん）を想いネーミングしたと聞いている。

「こいさん会」の正式発足の前から、昭和31年卒の先輩方が折に触れて集まって飲んだり、時にはハイキングや山登りに行き、親睦を重ねたり、淋しさをまぎらわせていた事がベースになったとの事です。

現在、会員数は昭和20年の旧制都島高専の卒業生から平成7年（1995年）の卒業生までの168名です。近年は毎年5月の第3金曜日の夕刻、同窓会を開いており、大体30～40名の同窓生が集まって活動を続けています。ここ数年は、機械工学科の学科主任教授の御出席をいただき、大学、学部、学科の近況のお話をいただいております。同窓生にも好評です。この機会を借りてお礼申し上げますと共に、今後共、先生方の御協力をお願いします。

同窓会である以上、大先輩から若い同窓生まで御出席願っているのだが、若い人達の出席率が余り良くない。気の若い大先輩から、カラオケ大会も取り入れてはどうかとの意見も出ているが、会長の怠慢のため、今年は実現していない。来年はカラオケも取り入れ、諸先輩は勿論のこと、多くの若い同窓生にも参加していただき、出席者を50～60名に増殖し、遣送歌の桜花爛漫を大合唱したいものです。同窓会員の皆様の協力をお願いすると共に全国に居られる同窓生の方々の飛び入り参加もお待ちしております。

最後に成りましたが、「こいさん会」のベースを築かれた昭和31年卒の林 宏、浜本嘉輔、秋山高治、故飯田明敏等々、林 宏、山田祐二（S33年卒）、寺奥 博（S34年卒）等の歴代の会長、現在の活動を絶大にサポート下さっている片井振武（S22卒）、吉井朗（S33年卒）両先輩に深く感謝します。また、本稿のチャンスを下さった大阪市立大学工学部同窓会の益々の発展を祈念すると共に、御礼を申し上げ、筆を置きたい。THANKS A LOT!!

（機械・昭和39年卒・宇部興産㈱・第4代こいさん会会長）

インターネット時代

逢坂 勝彦



修士過程を卒業して企業に入社し、2年半後に出身の研究室に教員として戻り、早くも14年が過ぎました。大学での講義は専門である材料力学、機械工学に関するものが中心ですが、本年度（平成9年）は文系1回生の情報処理の演習を担当することになり、半年間演習を受け持ちました。以下、その

感想を述べたいと思います。授業では、ワープロ、表計算とともに、電子メール、WWWブラウザ、ホームページ作成について演習を行いました。授業の最後に出欠確認もかねて電子メールで授業の感想を送ってもらいましたが、学生がどのように感じているのかが分かり、授業を進めていく上で参考になりました。また、学生が作成したホームページは、各人の個性が出ており、予想以上にそれぞれの学生の事を知ることができました。今回、情報処理の演習を担当して、電子メールやホームページが、コミュニケーションの手段として有効であり、特に、ホームページではいろいろな情報を伝達することができ、その能力が高く、ポテンシャルも大きいことを感じる事ができました。この授業は自分の専門外で自転車操業で何と乗り切ったという状態でしたが、私にとってインターネット時代を漠然とですが感じる事ができ、得られることが多かったように思います。

(機械・昭和54年卒・大阪市立大学工学部)

電 気

電気工学科の近況

志水 英二



午後3時からの全学委員会、5時近くになると文系の先生方がそわそわ、「どうされたのですか」「いや、これからゼミを始めなくてはならないので」「あれ、先生は今年は二部担当がないとおっしゃっておられたのでは」「昼間のゼミですよ。しかし、就職活動で昼間は学生が来ないので。それでいまからです」

工学部ではこのようなことはありませんでしたが、4月になる前から学生がそわそわ、「どんな会社で働きたいですか」で始まって、「会社についてしっかり勉強してきてや。面接ではやる気を表さないとあかんよ」「まだ、結果こないなあ」と親がわりの指導と心配、「よかった、おめでとう、あと勉強がんばりや」「つぎどこ挑戦する？」こうした日々がようやく終わりを告げつつあります。

この間、卒業生のみなさんには本当にお世話になりました。お願いした学生が頼り無く、先輩が一生懸命、会社との間に立っていただいた場合もありました。本当に頭が下がりました。景気が少し上向きであることもあり、求人数が増えましたが、「市大の電気卒の人は電気にかかわらず、機械も化学も、営業でも元気にされますね」という諸先輩のすばらしい評価が幸いし、学生を社会に飛び出させる準備が順調に進んでおります。感謝の一言につきます。

ひさしぶりに主任を拝命し就職指導をしましたが、リクレーターとしておいでいただくみなさんにお会いでき、昔話に花を咲かせる楽しみを堪能することができました。これをきっかけに、これからはしばしば、おいで下さい。

電気工学科は大きな変化もなく、最先端の研究を諸外国の先生方と展開されている先生、基礎的研究を地道にやってお

られる先生、企業との共同研究に走り回っておられる先生、それぞれのやり方にがんばっております。

最近は大学が基礎研究、企業が応用研究をという分担が勧められ、企業との共同研究の機会が多くなり、大阪市をはじめとする公共団体の助成も増えました。諸先輩におかれましても、是非とも育ち所である電気工学科の基礎研究を生かした共同研究を展開していただきたく思います。もし、可能性が有りますならば、ご連絡下さい。

では、ご健勝を願っております。(電気工学科主任教授)

「物作り人生」

中野 秀治

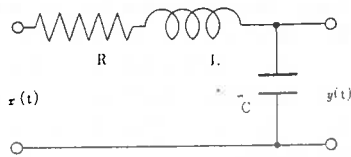


電気工学科を卒業して早や35年になろうとしているが、その間松下電工(株)にて小物家電商品の開発に携わってきた。企画、技術開発、設計、品質保証等の面から携わってきた商品は数百を軽く越える(家電業界では毎年2、8月に新商品を発売するシステム)。数年以上の技術開発を掛けた新商品や勿論小手先だけを変えた新商品、所謂ミリオンセラーの商品、全く売れず処分決裁をした商品もあった。また会社業績に大きく貢献したと自負できる商品もあるが、逆にトラブルの続出で納期大幅遅れ、不良返品の手、赤字商品等会社に大きな損失を与えた方が大きいかもしれない。しかし各商品とも全力で開発してきた。特にユーザーの満足度を高めるためにいかなる機能性能にすべきか、その機能性能を発揮する技術手段は原理原則に合っているか等徹底的に追求し開発を進めてきた。この考えと努力により他社に負けない機能性能の商品を開発してきたと思っている。

しかし最近品質保証の立場で開発に携わる様になり、この考え方がすこしづつ変わってきた。「ユーザーの満足確保」の考え方はメーカーの押し付けになってはいなかったかとの思いである。開発者、設計者が考えもしなかった使い方しているのでは、殆どマニュアル(取扱説明書)を読んでいるのでは、メーカーが考えもしない、いろんな層のユーザーがいろんな使い方をしているのが現実である。この考えの足らなかつた幅広いユーザーの幅広い使い方でも満足が得られ、かつ安全な商品を開発しなければならないと考えはじめた。

これからは真のユーザーサイドに立った満足のゆく商品、地球に優しい商品を開発すべく努力と後輩への教育指導、伝承に心掛け、更なる開発に邁進しようとしている。

(電気・昭和40年卒・松下電工(株))



カーエレクトロニクスに携わる者として

美濃出 正人



私は、昭和59年に電気工学科前期博士課程を修了し、ダイハツ工業㈱に入社して以来13年間カーエレクトロニクスの開発に携わってきました。カーエレクトロニクスの分野は、私が入社した頃から著しく広がり、EFI・ABS・エアバッグなどのエンジン・ミッション・ボデー制御のみならず、ナビゲーションシステムなどの情報通信分野にまで広がってきています。また、現在、ITS（高度道路交通システム）と称して、情報通信技術と車両制御技術を融合させて交通渋滞の解消と交通事故・排気ガス公害の低減を図ることを国家レベルで推進中です。このように、自動車メーカーにおけるカーエレクトロニクス技術者の必要性はますます増大しており、私としてもこれまで以上に使命感と熱意を持って従事していかなければと、この文面を書きながら改めて自分自身を叱咤激励しているところです。

それでも、大学時代に北浜先生、志水先生、松下先生を始めとする諸先生、諸先輩の方々により、授業での勉学のみならず卒業研究等の研究室活動を通じて電子技術のセンスを身につけさせて頂いたことによるものと深く感謝している次第です。（電気・昭和59年卒・ダイハツ工業㈱）

雑感～ちょっとPR～

山本 尚志



「鉄道運賃は高い！」と思っておられる方は多いのではないのでしょうか。一家に一台は当たり前の車社会、ちょっとした買い物から家族旅行まで、安くして便利なマイカーを利用してしまいます。

そこでちょっと考えていただきたいのです。日本国内の人の動きは、鉄道が30%、車が60%だそうですが、エネルギー消費の割合で見ると、鉄道は8%、車は70%となります。鉄道がいかに効率のいい輸送機関であるかが分っていただけるのではないのでしょうか。

今、CO₂の増加による地球の温暖化等、環境問題がクローズアップされています。電気鉄道は、主に火力・原子力によって発電された電気を使用しているので、クリーンとは言えないかもしれませんが、他の輸送機関と比べれば、環境面でも優れています。

卒業して早10年、私も子供が生まれてからは、せめて今の環境を子供世代に残してやりたいと考えられるようになりました。個人にできることは、リサイクル等限られていますが、鉄道等公共交通の利用もそのひとつだと思うのです。たまには、マイカーを置いて、電車であけてみませんか。（その時は、ぜひ風光明媚な近鉄沿線へ！）

（電気・昭和62年卒・近畿日本鉄道㈱）

応 化

応用化学科の状況

小澤 文幸



本学に赴任してから4年目を迎え、4月から学科主任を勤めることになりました。卒業生の皆様には益々御健勝にて御活躍のこととお慶び申し上げます。

応用化学科では3月末日をもって高分子化学講座の青木修三教授が定年退職されました。学科改編や教育課程改革の難局を学科の中心となって乗り切ってこられた先生に心より感謝申し上げます。4月には反応・合成工学講座で朝見賢二先生が助教授に昇任され、また新進気鋭の米谷紀嗣氏が助手として参加されました。昨年就任された米澤義朗教授のもと、着々と講座整備が進められています。

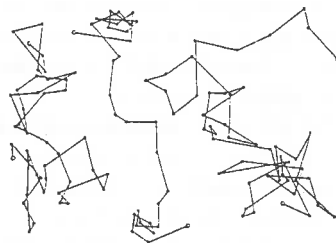
3月末には念願のB棟改修工事が終わり、廊下も階段も見違えるほど明るくなりました。また本年度はD棟改修工事は始まり、学生実験室をはじめとした施設が生まれ変わろうとしています。キャンパス整備も急速に進んでいます。美しくなった母校をぜひ一度御覧ください。

さて本年度の新入生は、学部33名、大学院前期博士課程15名、後期博士課程2名でした。また卒業生は学部32名、前期博士課程12名を予定しております。大学院生は後期博士課程進学希望の1名を除き、全員の進路が決まりました。学部4回生は約半数が大学院に進学し、就職予定者も男子学生は全員が内定しました。ただ、女子学生の就職には依然として厳しい状況が続いています。

本年度は就職協定が撤廃され、景気の回復とも相まって、求人される各企業の出足が早まりました。このため、特に大学院生の一部に浮き足出す様子も見られましたが、学科では全員に4月以降の就職活動開始を指導し、徹底させました。企業の方々にもこの点について十分な御理解と御協力をいただきました。求人にお出いただきました卒業生の皆様に厚く御礼を申し上げます。

旧帝大を中心とした全国的な化学系大学院の重点化と収容定員の増加の中で当学科も真剣にその存在意義と教育・研究の在り方を見つめ直す時期に来ています。卒業生の皆様には今後とも変わらぬ御支援と御鞭撻をお願い申し上げます。

末筆ながら皆様の益々の御健勝と御活躍をお祈り申し上げます。（応用化学科主任教授）



環境問題

佐野 幸



石油化学が大きく進展して、注目されていた昭和39年に期待に胸を膨らませて入学した。しかし、在学中に水俣病、四日市喘息に代表される高度経済成長のひずみの公害問題が表面化した。かねみ油症事件に端を発した既存化学物質リストの作成は現在も製品開発の大きな足かせとなっている。2度にわたる石油ショックと急激な円高が化学産業だけではなく日本の産業を襲った。これらの困難な課題を克服しながら日本の化学産業は発展してきた。

現在、製品開発を担当しているが、化学産業を取り巻く環境はますます複雑になってきている。過去の価値観が180度転換することがある。例えば、フロンは毒性は低く、燃焼性もないため、こんなすばらしいものはないかと思っていた。ところが、分解しにくいためにオゾン層を破壊するという問題が発生した。これから、社会と調和しながら発展するために克服しなければならない課題として、リサイクル、シックハウス症候群、エンドクリン、地球温暖化防止などの環境問題がある。これらの問題を考えながらの製品開発はなかなか困難なことになってきていることを痛感する毎日です。

(応化・昭和43年卒・第一工業製薬(株))

現場100回

山田 光昭



数年前に大学を出たかと思っていたら、企業に入ってもう10年余りが経った。入社当時は石炭ガス工場に勤務していたが、当社の供給ガスも天然ガスにすべて変わり、石炭ガス工場が順次閉鎖となったことから、現在は、応用研究所において、新しい樹脂の開発を行っている。

研究開発分野は、バルブがはじけてその後遺症をまろにくらい、人、物、予算が極端に減らされた。昔は、研究所で培った技術を開発担当部署に引き継ぎ、製品化を図っていたが、もうそんな時代は終わりを告げてしまった。ラボの基礎実験から商品化に至るまで、研究員が携わり、ラボで出来たことを実機プラントで実証し、商品仕様まで決定することが必要となった。しかし、困ったときは現場100回と言うとおり、やはりラボに立ち返る。面白いことに、ふと学生時代の実験ノートを眺めていると記憶にないことも実験しており、触媒の調製等大学で教わった実験が結構役に立つものであると痛感している。

卒業してから暫く立って母校のラグビー部監督に就任し、土・日は大学に良く顔を出す。立派な建物が沢山並ぶ中、深夜まで研究に励んだあの古い実験棟を見る度に、昔のことが懐かしく頭の中によみがえる。

(応化・昭和60年卒・大阪ガス(株))

頑張ってます！

石川 敏弘



大学院を卒業してもう18年が過ぎてしまいました。同窓生の諸氏も色々な所でご活躍のことと思います。さて、私事ですが、大学の時の専攻は高分子化学で、宇部興産株式会社に入社したときも高分子関係の研究所に配属されました。入社後の4年間は、ポリエチレン関係の研究を行っていましたが、5年目のある日、セラミックス繊維の開発研究を命じられました。この繊維は、有機の高分子材料を原料とし、その加工性を利用して直径十数 μm の連続長繊維に熔融成形した後、高温の不活性ガス中で無機化して合成するものでした。従って、高分子化学と無縁では無かったのですが、1000℃以上という高温を取り扱う点で、これまで経験してきた材料開発の概念とは大きく異なるものでした。この研究では、有機と無機ならびにその境界領域の化学を取り扱わなければならない、かなり広範囲の知識が必要となりましたが、従来の無機的手法だけでは合成困難な材料の開発も可能になると言うことも実感できました。この研究の成果の一つとして博士号の取得、高分子学会賞の受賞にも恵まれ、また現在では、本業の他に山口大学客員教授の職も得て頑張っております。

(応化・昭和52年卒・宇部興産(株))

建 築

建築学科の近況

成瀬 哲生



本年度は、4年間一貫教育を目指したカリキュラムの改革から4年目になります。卒業生の皆様お元気です。早くも五度目の学科主任です。

先ず、学科教員の近況ですが、本年4月に新任の中村仁助手を都市計画講座に迎えました。東大経済学部卒業後民間を経て、同工学部都市工学科学士入学後、大学院前期を修了した、異色の経歴をもつフレッシュマンです。建築計画の杉山助教授は、3月から1ヶ月半オーストラリアのメルボルン大学に学術交流で派遣され、同大学との交流促進に貢献しました。建築構造学の藤本講師は、昨年8月から約10ヶ月イギリスのサリー大学に留学し、英国紳士術を身につけて無事帰学しました。その他は変わりなく、皆元気に教育・研究に勤んでいます。

次に、学生の状況ですが、進路関係は次のとおりです。学部4年生は40名中38名が卒業予定で、11名が進学し、2名が

他大学進学を希望、就職希望者は25名、内定者19名です。(官公庁3、建設業5、設計コンサル2、プレハブメーカー5、その他4) 公務員結果待ち4名、未定者2名です。院生は12名中就職希望者は11名、内定者は7名(官公庁3、建設業1、設計事務所1、プレハブメーカー1、その他1)で、公務員待ちは1名、未定者2名です。本年度は、ゼネコン生産管理希望者が少なく、近年のニュースの好ましからざる影響かも知れませんが、設計事務所及び公務員の採用も少いのですが、特に女性に厳しいのが特色です。女子学生はパーパーテストはよく出来るが、面接では少し元気がないという風評です。入学者は年々増加の傾向にあり、一見華やかなのですが、学科としても教育対策を考える必要がありそうです。

現在学科として取組んでいる大きな課題は、新学科構想と大学院の再編成です。主として土木工学科と協力し、環境都市工学科(仮称)設立の準備をしています。しかし、大学院再編と既存学科との調整の難しさを感じています。もう一つは、12月開催予定の工学部主催の国際シンポジウムです。こちらは益々拡大の方向に進みつつあり、予算オーバーが心配です。皆様の一層のご支援をお願いする次第です。

最後に、元教授石堂正三郎先生が、6月にご逝去されました。先生は大学紛争の最も厳しい時に、建築環境工学講座の重責を担われました。ご冥福をお祈りします。

(建築学科主任教授)

最近の仕事から…

岡部 恵一郎



同窓会員の皆様方には、いかがお過ごしでしょうか。私こと、社会へ出て15年、建築設計に携わっております。ビル建築、町おこしから、家具、什器の設計まで、「形」を造ることにかけは「なんでも屋」です。最近の仕事では、奥能登の寒村「真臨」というところの町おこし関連のプロジェクトで、縄文遺跡に関わるものがあり、考古学ブームも相まって興味深い仕事となりました。その遺跡は、4000年にわたる長期定住遺跡であることが特色で、4mにのぼる堆積層に、縄文初期から晩期迄の各時代の生活のありさまが、そのまま層序となって残されています。また、そこは海辺で縄文人の狩猟の獲物は、主に岸辺に迷い込んだイルカであったことが、土品から判明していますが、驚くべきことに数十年前迄、この地方ではイルカ漁が行われ、それが人々の主要な蛋白源であったというのです。私たちの時代、21世紀目前といっても有史以来2000年のこと。それに倍する時間の長さ、集落が維持された往時の社会の仕組みや、この地方で6000年間、つい最近まで続いた慣習について思う時、よく耳にする「持続可能な社会の発展」とはこういうものなのか、と自らの仕事の目標との接点を掴めぬまま、ひとり納得している様な次第です。

(建築・昭和55年卒・㈱環境・建築研究所)

街作り・リスク・コンサルタント

嶋出 理



バブルがはじけて5年、その反動がまちづくりの仕組に様々な形で表われているのではないのでしょうか。

まちづくりは、公と民との役割分担で行なわれております。つまり公は、都市の基盤整備と、民の行なうことに対する助成であり、民は投資を行いその回収を図ることにより街の活性化・経済活動に資することがその基本的役割でしょう。

これらは単純化して言えば、一定のエリアでまちづくりの企画からいくつかの段階を経て工事という形をとる一方、完成後のマネージメントを行うソフト作りが並行して進められるでしょう。

その為には完成まで(投資の回収—税収増もその一部)相当の先行投資が必要であります。又まちづくりも不動産事業であるから、そこには必ずリスクが伴います。

昨今の金融機関、各種事業主体は、若干でもリスクの感じられる投資に対して、まったく意欲をなくしており経済活動が冷えております。そのあおりが企画・計画を受け持つコンサルタントや設計事務所等、弱小組織をキビシイ環境にしています。街を活性化し経済活動を活発にするには、適性なリスク負担と先行投資が行える仕組を造り上げる必要にせまられているのではないのでしょうか。

(建築・昭和46年卒・㈱和敬)

社会人生活と阪神大震災

杉本 充生



私が大学院を修了してから丸5年が過ぎ、社会人生活も早6年目となりました。自分自身が主体となって街をつくりたいと思い、民間デベロッパーに就職しましたが、時期悪く(?)丁度バブルが崩壊しつつある頃で、民間の開発事業はかなり難航していました。そうこうしつつもやっとほのかに明かりが見えてきていたときでした。阪神大震災が起きたのは。

そのとき私が加わっていたプロジェクトは西宮のウォーターフロントでの商業施設を中心とした大規模開発案件だったのですが、これまでの計画から一気に180度転換し、震災復興のための集合住宅地開発へと大きく見直されました。このときの計画再検討時に一から参加し、震災復興に寄与するためのまちづくりのあり方や、民間事業者としての事業性確保の方策等、この1~2年の間にかなり多くの経験をさせていただきました。(それは今も継続中です。)

最近では震災復興に対するニュースも以前と比べるとあまり大きく取り上げられなくなりましたが、私を含めてかなり多くの方が震災復興に深く関わっていることと思います。一日も早い復興とともに、我々も今回の大きな経験による更なる成長を勝ち取れることを、と願う今日この頃です。

(建築・平成2年卒・積水ハウス(株))

土 木

関西国際空港の近況

当麻 利明

土木工学科の近況

中井 博



皆様、御健勝であられることと、お伺い申し上げます。実のところ、昨年、私が教室主任をやる予定でございました。しかし、i) 日独鋼・合成橋梁コロキウム、およびii) 日韓鋼橋セミナーという2つの国際会議の世話人を頼まれており、前年度の主任の西村 昂教授をお願いをして、教室主任を1年だけ繰り下げてもらいました。私はあと1年少々で定年退職を致しますので、これが、最後の教室主任ということになります。

本年度のことを、順を追って報告いたしますと、新入生45名(内女子4名)、大学院前期博士課程15名、また後期博士課程4名(内社会人2名)を迎えました。

そのための教員人事としては、平成9年4月1日より、計画研の日野泰雄講師が、助教授に昇任されました。また、構造研の石丸和宏助手は、明石高専へ転勤されました。したがって、土木教室は、現在19名の教員で教育・研究を行っています。まだ教員2名を採用する余地が残されているのですが、後述の新学科の開設に伴う人事として、凍結しております。

今年から、就職協定がなくなるということで、3月中頃から学部4回生、および大学院修士課程2回生の方々の就職斡旋活動を始めました。4月早々には、諸先輩に來校してもらい、就職説明会も開かせてもらいました。また、主任研の教員で個別の面接もやったうえ、実質的には、5月上旬より会社訪問を開始させてもらいました。

現在(8月中旬時点)のところ、ゼネコン組11名、コンサルタント組5名、およびメーカー等の組9名の方々が内定しており、公務員・公団組2名の方々が合格で、残る方々から、その後の報告を待っているところでもあります。また、大学院の進学希望者は、14名であります。

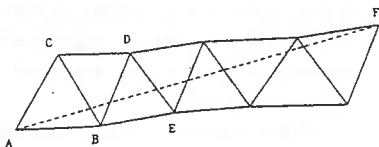
土木教室からの慶・弔については、今年、まだ報告すべきことが見当たりません。

土木教室の若手教員の研究活動の一環として海外出張される機会も多くなってきており、たとえば重松孝昌助手、望月秋利助教授、眞嶋光保助教授、東田淳助教授や中西克佳助手が、それらに該当します。また、土木教室へ2名の海外からの客員研究員も、受け入れています。

前年度の教室主任から報告があった21世紀をめざして都市環境工学科をつくる課題も、論議が進み、来年の開設をめざして準備が整えられつつあります。

何かにつけ、先輩の方々よりの多大なご支援に深謝すると同時に、皆様の御活躍・御発展を念じて止みません。

(土木工学科主任教授)



航空の世界に身を置いて30年余、終盤にきて故郷の懸案の大プロ関西の建設に深く携わり、開港後も空港の運営の一端を担いながら成長を続ける関西と共に歩むという幸運に浴しています。開港後3年になる関空は、その威力をいかに発揮し、世界の63都市と結ばれる国際線の旅客、貨物はともに伊丹時代の2倍を超えるめざましい伸びを示し、国際ハブ空港の地歩を着実に固めつつあります。

ところが、空港の発着能力が周辺空域の混雑から限界に近づいており、この解決には飛行経路の見直しと滑走路の増設が差し迫った課題となっています。

関空の母都市大阪は“国際集客都市”という明快な戦略を掲げて街づくりが進められており、その成果を2008年のオリンピックというスーパーイベントに問うべく候補都市として名乗りをあげ、ライバル横浜を破って日本の代表都市となりました。まずは第一関門突破です。

関空は国際集客都市の重要なインフラであり、滑走路の増設は大阪オリンピックをターゲットに前年の2007年供用を目標としています。オリンピックを追い風に地域の強力な後押しを得て輝ける2008年を迎えたいものです。

(土木・昭和40年卒・関西国際空港熱供給株)

10年ひとむかし

明橋 克良



大学院を修了してはや10年、会報に投稿する機械を与えていただき、過去十年間の私個人を見つめ直してみようかといろいろ思い浮かべました。以下に列記します。

- 千葉勤務となったため標準語を話せるように努力しましたが、大阪在住25年の垢は落とせず未だ河内弁。
- 1度に飲む酒量は2倍、毎日飲んでみても平気になり、最近では毎日飲まずにはいられません(初期アル中)。
- 就職して気苦労が増えたが髪の毛は激しく減った。
- 年功序列の会社に就職したため年相応の役職に就いた(今後10年は未定)。
- 千葉→広島→千葉→名古屋と転勤が多く、未だ独身。
- 引越しも多く6回を数え、同窓会名簿には古い住所が記載されている(連絡せずに申し訳ございません)。

以上のように、あまり良くない10年でした。しかし、どの土地に行っても、大学時代にお付き合いのあった諸先輩方だけでなく、恩師を通じて知り合いになった方々にも、公私を混えてお世話になりました。諸先輩方に甘えてばかりいた私ですが、これからは今までの恩返しと、後輩諸君のお世話をやっていこうかと考えております。日本のどこかで私を見かけたらお声をかけて下さい。

(土木・昭和61年卒・榊横河ブリッジ)

応 物

応用物理学科の近況

中村 勝弘



工学部B棟の改修も終わり、日増しにキャンパスが整備され、快適な教育研究環境が整いつつあります。これに対応して教育研究の中味や内容の充実が焦点の課題になっています。

さて、研究のactivityが高く学科のためにも尽くしていただいた若手の橋本秀樹助手が3月末に静岡大学工学部へ転出されました。少し寂しくなりましたが、さっそく4月には、数理工学講座に寺井章助教授が北里大学から着任され、光物性工学講座には金大貴助手が市大理学研究科を終了して本学科最年少の教員として採用されました。寺井先生は有機導体のソリトン励起の理論で優れた業績を納めていますが、市大着任を機に量子カオスのテーマにも着手されようとしています。金先生はイオン結晶及び半導体超格子における高密度励起子の動的過程の実験研究で優れた成果を収めております。両人とも今後の活躍がおおいに期待されます。

学生の進路については、院生(M2)は希望者11名全員の就職が内定し、学位取得予定のD3の2名は目下研究職を目指して活動中です。学部4回生は、14名が当学科の大学院を希望し、ほか4名が他大学大学院への進学を予定しています。(本稿を執筆している時点では、まだ院の入試が終了していません。)就職希望者20名については景気の回復を反映して全員の就職が内定しました。このような良い結果が得られたのは、ひとえにキャリアと人望のある藤井康夫助教授のきめ細かい就職指導のおかげです。

応用物理学科の当面の大きな課題は、市大工学部の新10学科構想の中で、一層の発展をめざし、特に創造性と先端性という社会的ニーズに対応していくことです。本学科は、設立以来一貫して科学技術のフロンティアとして、物理学と工学の境界領域に立脚し、物性工学、計測工学、数理工学を主要3分野とする研究と教育の高度化と多様化を図り、科学技術に対する社会的ニーズに応えるために、学際的・境界的な領域を切り開き、一段と魅力のある学科、研究科へと飛躍することを目指していきたいと考えています。

最後に皆様のご活躍とご発展をお祈りいたします。

(応用物理学科主任教授)

— 学科ボード —

- ◎工学部同窓会の監事や評議員として長年同窓会の発展にご尽力下さった西田 新氏(昭和34年応物卒)が、さる3月6日に逝去されました。ここに謹んでご報告させていただきます。合掌。
- ◎同窓会評議員の北島顕弘氏(昭和34年応物卒)が平成9年春に、黄綬褒賞「スパッタリングによる透明導電膜の製造法の発明考案に精励」を受賞されました。おめでとうございます。(美馬記)

畏友西田君の訃報に接して

田中 昭秋



美馬君(応用物理学科教員)よりの手紙で、西田君が3月6日に亡くなったことを知り、心臓が凍るような衝撃を受けました。昭和40年に仕事で群馬に移住後、忘年会で大阪で会ってから、20数年会っていない西田君の死が、私にこのような大きな衝撃を与えたのは、西田君の人生観を尊敬していたからで

す。人柄が良く、損得を考えずに皆の面倒をよくみる上に、常に前向きに人生を突き進む西田君の生き方が大好きだったからです。

29年に機械工学科を卒業後、32年に電子工学コースに学士入学した、年上の小生に対する同級生の様々な対応の中で、西田君は常に先輩に対する敬意と、同級生に対する親しみの調和が適切で、小生にとっては最良の付き合いが出来ました。

毎年もらう年賀状で、詳細な近況の報告と前向きな抱負を読み、さすがは西田君と強く感心していました。それが突然の訃報で、現世の無常を強く感じるのみです。

西田君はご遺族と同様に、我々にとっても誇りに出来る存在であり、我々の心からの友です。安らかに

(機械・29年卒、応用電子・34年卒)

杉本町を離れて

田中 功



長いようで短かった9年間。弓道部での練習や大学院での研究生活で、ほとんど毎日通い続けた杉本町を離れてから、もう4年目になりました。私は、現在、日本放送協会(NHK)に勤務しております。よく国営放送と思われがちですが、実に財源の96%が受信料で賄われている公共放送です。入局時には、各家庭に訪問して受信料契約を行う実習もあり、受信料の大切さを学びました。

技術職場の中には、番組制作技術や受信技術などがありますが、私は放送技術研究所で、記録デバイスの研究開発に従事しています。都内の住宅街に位置し、番組に年数回程度しか出ませんので、大阪では知らない人が多いと思いますが、ハイビジョンを開発した研究所です。

将来、衛星放送、地上放送、光ファイバなどの伝送路を利用して、番組や画像情報など、さまざまなサービスをデジタル信号で送る統合デジタル放送(ISDB)やマルチメディア放送には、大容量でアクセスの速い記録媒体が必要とされています。中でも、光ディスクは、非接触、高密度などの特徴を持ち、さらに大容量化を目指して、記録媒体の研究をしています。東京の味にも慣れましたが、東京人に染まらぬよう大阪弁で頑張っている毎日です。

(応物・平成元年卒・NHK放送技術研究所)

情 報

情報工学の近況

濱 裕光



同窓会の皆様、いかがお過ごしでしょうか。主任業と言うか、教授業と言うか、まあ、毎日大忙しです。「猫の手も借りたい。」とか言いますが、「ネズミの手でも借りたい。」くらいです。でも、世間では、暇な職業の代表のように思われて損をした気分になっています。

さて、余計なことはさておき、心配だった就職ですが、3年前と打って変わってチョベリグです。就職希望者は研究生を含めて13名いましたが、すでに全員内々定をもらっています。求人合計420数社、中には電気・情報関連以外の会社もあり、うれしい悲鳴をあげております。

それから、この1年間のビッグニュースと言えば、～～、そうです。学部長、事務長はじめ関係の皆様方のご協力を得て、悲願の情報工学専攻（修士課程）が、この春に開設されました。綱渡りをうまくこなしながら、無事入学試験も終了し、11名の第1期生を受け入れることができました。これに伴って、スタッフの移動があり、4月から電気工学科の前川先生を情報システム工学講座の講師としてお迎えしています。

最後になりましたが、皆様方の一層のご活躍とご発展をお祈りいたします。
(情報工学科主任教授)

「東京」

古川 三貴



疑惑の卒業生、古川です。不真面目な学生であった私の近況報告です。

現在私はソフトウェア会社に席をおき、他の会社に常駐して（「派遣」と思われがちだがホントは違う）仕事をしております。他の会社ということで肩身が狭いと、思いきや、自社の偉いさんが近くにいらないため逆にノビノビ

と仕事ができます。

そんな私は一年前、常駐先の職場移転に伴い一緒に転勤となり、東京（実は埼玉）に住むことになりました。慣れぬ東京勤務と少し緊張しましたが、元の職場にいた人の大半が東京に転勤となったため、今までとほとんど変わらない環境で仕事ができます。

情報工学科の同期も数名こちらに来ており、時々集まっては飲み会などをしております。同期ってええもんな、としみじみ思ったりして。

初めは1年という約束で来た東京ですが、住めば都、なかなか楽しく、「もう一年いたい」と思い、その結果今に至っております。このまま東京人になってしまうか、祖国大阪に帰るかは自分でもよくわかりませんが、若いうちにはいろいろ経験したいと思っております。(情報・平成6年卒・㈱CSK)

卒業後2年半

赤木 節子



卒業して2年半、現在私はNTTの法人営業部門でシステム販売の技術支援部隊として、システムの提案、検討、設計、構築までの調整等を担当しています。システムを統合的に検討していく中で通信技術は勿論、コンピュータのハードやソフト、更にはマネジメントまで幅広い知識が要求されています。システムの構築にはそのような様々な知識や技術に利用者の要望が加わり、決してマニュアル通りにはいきません。が、その奥深さがシステムインテグレーションの難しさであり、おもしろさなのでしょう。仕事はまた、興味深い事、やりがいのある事ばかりではありませんが、どんな小さな事からも何かを得、それをどう活かすかは自分次第なのだと思うと、何事も中途半端には出来ず、毎日四苦八苦しています。

これまで仕事上の初体験からアフター5の立飲屋さん、そしてイルカと泳ぐ夢への第一歩、ダイビング初体験等様々な経験をする中で、技術の進歩に便利さを感じる一方、今なお変わらない、また変わらずにいてほしい自然を肌を感じたいという気持ちも強くなりました。その両極端を楽しみながら、仕事外でも色々な環境に自分を置き、また挑戦する事で、新しい自分を発見し、磨き続けていきたいと思っています。

(情報・平成7年卒・NTT株)



生 応 化

生物応用化学科の7不思議

加藤 錠治



櫻並木の美しいキャンパスには、今年もはやセミの季節が訪れました。皆様ご健勝にご活躍のことと存じます。生物応用化学科も開設されて7年が過ぎ充実して参りました。大学にも教育・入試・研究費などに対して多様化が求められ、改革の波が押し寄せていますが、生物応用化学科ではこれらに流

されないよう頑張っています。

今年は、生物応用化学専攻に待望の後期博士課程が開設され、社会人ドクターを含め定員どおりの5名でスタートしました。前期博士課程は17名受験し、定員の10名(内1名女子)が入学、学科へは17名(内3名女子)が入学し、活気に溢れています。進路状況については、前期博士課程2回生10名の内、8名(内2名女子)の就職が内定し、残る2名は進学希望、4回生17名の内、8名(内女子5名)は就職内定、8名は進学希望で、ほとんど進路は決まっています。教員構成は昨年と全く変わっていませんが、生体機能化学講座の長崎助教授が今春から1年間の予定で米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校へ留学しておられます。

最近、生物応用化学科では不思議なことが起こっております。(1)廊下に見えないフェンスがあって、その奥には毒素がある。(2)罪の扉があって、行きはよいよい、帰りは怖い。(3)ある研究室では「 $2 + 1 = 2$ 」となり、何故か3になりません。(4)また、ある研究室では $1 + 1$ が1になったり2になったり。(5)生応化に芸術家をかけると、その答えは何故か「苦楽」なる。(6)後期博士課程が設置されたら学位審査権が蒸発

する。(7)良識・常識のない空間があり、この空間での行動は悩みの種。これら7不思議には「解」があるはず。是非、解をもとめてご来駕下さい。教員・学生一同楽しみにお待ちしております。(生物応用化学科主任教授)

「社会人ドクターになって」

丸山 庄治



本年4月に生物応用化学科に新設されました後期博士課程に社会人特別選抜学生として入学しました。皆様、どうかよろしくお願いたします。私は昭和59年に山口大学大学院工学研究科を修了して以来、医薬品メーカーで工業化検討すなわちルート選択、反応条件最適化、分離精製、スケールアップ

などを担当してきました。ラボ-中間プラント-工場を行ったり来たりしており、力仕事には自身があります。

どの業種でもPL法などを背景に製品の安全性についての認識は高まっておりますが、特に医薬品の場合は生命に直結するものですので、万が一の事故もあってはなりません。「医薬品の製造管理及び品質管理規則」(GMP)やバリデーションが薬事法の中で重要な位置づけとなり、より厳しい品質保証が求められております。装置などのハード、管理体制やマニュアルなどのソフトとともに、根本的に外的な変動の影響を受けにくいプロセスをデザインすることが重要で、そのためにはメカニズムの本質に立ち入った説明が必要となってきます。私は、そういう観点で研究を行っていくと考えています。(生応化・後博1回生・田辺製薬株)



学術情報総合センターの建設で再整備された工学部正面玄関付近
(工学部同窓会事務局は玄関右側2階の出窓の部屋にある)

同窓会事務局年報 ('96・12～'97・9)

'96年12月…第10回評議員会の案内ハガキ発注(12日)。
残高証明書の申請(26日)。

'97年1月…第12期会計監査、第3回理事会で第10回評議員会の議案および懇親パーティの次第を検討(23日)。

2月…第10回評議員会で下記の4議案を可決後、会員懇親パーティー1997を開催(新阪急ビル)(7日)。市大広報No31を購入・配布(20日)。

3月…市大同窓会連合会の理事会に廣岡会長が出席(18日)。工学部送別式・鏡割りに廣岡会長他理事有志が出席。'97年度入学手続者に会費払込要請(14、26日)。

4月…桜植栽小委員に都築・人見両理事選出(10日)。

5月…近隣国公立大工学系同窓会の会則をそのOB教員に依頼(1日)。市大広報No32号を購入・配布(18日)。第106回市大ボート祭に協賛・廣岡会長出席(24、25日)。

6月…第14号会報の第1回編集委員を開催(25日)。

7月…会費未納の'97年入学・卒業生へ督促(3日)。第13期の初理事会で事業計画の具体化を検討(4日)。

8月…大阪国際学術文化都市推進会議に協力(2日)。市大広報No33を購入・配布(26日)。

9月…第13回第2回理事会にて、キャンパス交流会の11月1日開催、工学部主催の国際シンポジウムへの協力・援助を決定(5日)。

10月…第14号会報を発行(1日)。

(2)第13期理事会役員

- | | | | |
|-----|------------|-----|-------------|
| 会 長 | 廣岡 孝一(化29) | 副 長 | 見 晃(機26) |
| 副会長 | 坂内 幾男(建29) | 理 事 | 大月 正雄(機24) |
| | | | 下田 隆二(機29) |
| | | | 南 齋 征夫(機39) |
| | | | 宮本 万功(機43) |
| | | | 中島 弘(電25) |
| | | | 新保 市弘(電35) |
| | | | 長井 一郎(電39) |
| | | | 串坂 徹(電55) |
| | | | 津田 恒次(化29) |
| | | | 近藤 紘一(化37) |
| | | | 山田文一郎(化修40) |
| | | | 大嶋 寛(化49) |
| | | | 大東 清四(建25) |
| | | | 多胡 進(建34) |
| | | | 植木 正富(土24) |
| | | | 吉村 憬(土32) |
| | | | 伊藤 和雄(土38) |
| | | | 日野 泰雄(土50) |
| | | | 繁澤 孝(物32) |
| | | | 川上 一夫(物35) |
| | | | 和倉 慎治(物45) |
| | | | 富田 亮一(物53) |
| 監 事 | 保坂 博通(物34) | | |

(1)第12期('95・1～'96・12)収支決算報告

(イ)経常費収支決算表 [円]

収 入		支 出	
終身会費	9,100,000	評議員会費	178,869
預金利息	38,657	懇親パーティ費	104,262
名簿(8号)	82,800	会報13号経費	1,296,089
雑収入	11,000	名簿8号経費	1,262,027
		事務局費	4,100,375
		大学行事協賛費	545,607
		特別基金組入金	112
		次期繰越金	1,735,116
合 計	9,232,457	合 計	9,232,457

(ロ)貸借対照表 ('96年12月末、[円])

借 方		貸 方	
振替口座	43,824	'94年度累計剰余金	6,495,085
普通預金	2,756,377	第12期剰余金	1,735,116
定期預金	37,659,312	特別基金	50,826,815
有価証券	18,597,503		
合 計	59,057,016	合 計	59,057,016

(3)第13期事業計画

- (イ)同窓会報14号・15号を'97年・'98年10月上旬に発行。
(ロ)工学部および全市大的行事に協力・援助。
(ハ)恒例の同窓懇親パーティに加え、新しい会員交流・親睦行事を企画。
(ニ)今後の活動をより充実させるため、終身会員の20年振の改正および事務局の自立的運営体制を検討。

(4)第13期経常費予算 [万円]

収 入		支 出	
前期繰越金	823	評議員会費	20
終身会費	880	懇親パーティ費	15
預金利息	4	交流促進費	50
雑収入	6	会報14・15号費	280
		大学行事協賛	85
		次期繰越金	483
合 計	1,713	合 計	1,713

工学部の電話番号[06-605-(下記番号)] (1997. 9. 30. 現在)

機械工学科	電気工学科	応用化学科	建築学科	土木工学科	応用物理学科
福田 武人 2660	鈴木 裕 2676	小槻 勉 2693	谷池 義人 2764	園田恵一郎 2722	美馬 宏司 2742
元木 信弥 2661	南 繁行 2760	澤井圭二郎 2694	木内 龍彦 2706	小林 治俊 2723	曾我部 伸 2740
逢坂 勝彦 2962	黒田 輝 2787	五百井正樹 2977	谷口 徹郎 2707	鬼頭 宏明 2723	藤井 康夫 2738
野邑 奉弘 2663	志水 英二 2678	小澤 文幸 2884	坂 壽二 2708	高田 直俊 2724	西村 仁 2739
西村 伸也 2664	高橋 秀也 2679	南 達哉 2980	藤本 益美 2989	望月 秋利 2726	中山 正昭 2739
伊奥田浩志 2963	重田 和夫 2761	丸山洋一郎 2885	那谷晴一郎 3076	東田 淳 2725	北田 忠義 3089
東 恒雄 2666	青笹 正夫 2680	圓藤紀代司 2698	谷口与史也 2709	大島 昭彦 2996	金 大貴 3087
加藤 健司 2665	草開 稔 2681	松本 章一 2982	成瀬 哲生 2710	山田 優 2727	森 雄造 2743
脇本 辰郎 2965	田中 健司 2681	米澤 義朗 2770	西岡 利晃 2992	真嶋 光保 2780	笹沼 道雄 2744
南斎 征夫 2667	松下 賢二 2792	朝見 賢二 3080	新居 洋子 2711	貴上 佳則 2728	増岡 俊夫 2879
深井 完祐 2668	中川 吉郎 2878	米谷 紀嗣 2984	大倉 良司 2711	西村 昂 2730	三村三木夫 2880
上岡 真弥 2967	宮崎 大介 2877	山田文一郎 2797	多胡 進 2712	日野 泰雄 2731	小林 中 3095
吉神謙次郎 2662	建部 涉 2687	三浦 洋三 2798	杉山 茂一 2713	岡村 治子 3077	中村 勝弘 2768
森元 時夫 2670	山田正一郎 2686		徳尾野 徹 2713	小田 一紀 2732	寺井 章 2748
若林三記夫 2969			土井 幸平 2715	角野 昇八 3078	高根 美武 3090
守田 栄之 2671			赤崎 弘平 2717	重松 孝昌 2733	
瀧山 武 2672			中村 仁 2716	中井 博 2734	
高田 洋吾 2970			三木 信博 2993	北田 俊行 2765	
中山 守 2673			田中 康夫 2718	中西 克佳 2735	

情報工学科	生物応用化学科	事務室等
濱 裕光 2772	仲矢 忠雄 2782	教務係 2653
柳原 圭雄 2773	笠井 佐夫 2783	庶務係 2651
前川 義治 2763	北村 昌也 3091	図書分室 2657
細川 省一 2683	加藤 錠治 2699	守衛室 2096
岡本 次郎 2684	大嶋 寛 2700	
中島 重義 3096	東 雅之 3092	
辰巳 昭治 2688	玉垣 誠三 2695	
北村 泰彦 3081	長崎 健 2696	
藤原直賀人 2689	木下 雅悦 2702	
岡 育生 2779	山内 清 2703	
村治 雅文 2976	北條 裕信 3094	
村田 正 2795	萩野 健治 2799	
杉山 久佳 2796	串部 宏之 2747	

評議員の新任・交代

新任評議員(1997年)および交代評議員は以下の通りです。クラスメートの各位はよろしくご協力下さい。

学 科	1997年卒	交 替
機 械 工 学	本間 志郎 山中 芳昭	
電 気 工 学	松永 和也 吉田 武	高橋 晴雄(昭39年)
応 用 化 学	小豆澤 誠 山中 祥弘	
建 築 学	太田みどり 上谷 伸二	鬼藤 驍(昭25年)
土 木 工 学	麓 隆行 山村真由子	井筒 武輝(昭32年) 藤澤 政夫(昭38年)
応用物理学	辻井 篤 水野 正隆	北畠 顕弘(昭34年) 高山 直揮(昭45年)
情報工学	伊佐岡慶浩 稻 孝文	
生物応用化学	林 潤一郎 山崎 愛彦	

編集後記

この6月は、台風7、8号が相次いで上陸し、異常な天候が続きましたが、如何お過ごしでしたか。

さて、昨年の会報13号までは11月末の発行でしたが、恒例の大学祭を「同窓生の文流の場」として活用するため、この14号から会報の発行時期を2ヶ月早め、9月末に変更しました。

また、この会報では、一頁目にトピックスと目次を掲載すると同時に、各学科の恩師や同窓生に関する特別ニュース(200字以内)をまとめた「学科ボード」を新設し、学科主任の先生および正・準会員からの報告や通信等とともに、学科別に編集することを試みました。

ただし、広岡新会長、下田前会長、多胡工学部長およびこの3月に定年を迎えられた青木元教授(応化)からのご寄稿は従来通りの編集です。是非ご一読下さい。

なお、今年の母校大学祭「銀杏祭」は、10月30日～11月3日に開催されますが、11月1日(土)午後に、工学部同窓会の新しい親睦行事として、「第1回キャンパス交流会」が催されます。

見違える程美しく整備された杉本キャンパスや学術情報総合センター等の見学を兼ねて、友人をお誘い合わせの上、是非この交流会にご参加下さい。(M・H生)

編集委員

南斎征夫(機39) 建部 涉(電35) 大嶋 寛(化49)
赤崎弘平(建45) 小林治俊(土45) 美馬宏司(物36)
人見宗男(機31)

工学部同窓会員キャンパス交流会

★ 日 時：平成9年11月1日（土曜日）午後4時～午後8時

★ 場 所：市大学術情報総合センター（杉本キャンパス内 工学部東側）

★ プログラム：

(1)セミナー

時間：午後4時開演～5時40分終了

場所：学術情報総合センター10階 大会議室

①「カーナビとITS（高度道路交通システム）」

播口 正雄 氏（道路・交通・車両インテリジェント化推進協議会マネージャ）

②「インターネット入門」

中野 秀男 氏（大阪市立大学学術情報総合センター教授）

(2)懇親パーティ（会費：3000円）

時間：午後6時開宴～8時終了予定

会場：学術情報総合センター1階 ウエステリヤ

（注）セミナー前の学術情報総合センターの見学希望者へ

集合時間：午後3時00分

集合場所：工学部学術情報センター（A棟2階）

★ 参加の申込み：

期 限…10月23日（金曜日）事務局必着

申込先…〒585 大阪市住吉区杉本3-3-138

大阪市立大学工学部同窓会事務局

方 法…①氏名（専攻学科）、②セミナーへの出欠、③懇親パーティへの出欠、

④学術センター見学希望の有無を、

「はがき」でご連絡下さい。（FAXは06-605-2769へ）